

自由研究発表タイトルおよび発表要旨一覧

	第1室 (講義棟4階5407)	第2室 (講義棟4階5405)	第3室 (講義棟4階5404)	第4室 (講義棟4階5403)
14:00 ～ 14:30	映像の有無がシャドーイングの効果の促進に及ぼす影響について 國光 薫	リーディングを通じた付随的語彙習得：意味提示時における語彙反復とその保持率 山内 勝弘	英語学習における3欲求と内発的動機づけの因果関係 伊藤 紗織	文学教材を用いた発問作成のためのチェックリスト —「語り」に焦点を当てて— 武久 加奈
14:35 ～ 15:05	ライティング活動に関与する要因について(2) 藤居 真路	日本人英語学習者に対するリーディング指導の一研究 ～Prosody指導を支えとするチャンキングアプローチを採用して～ 中嶋多美子	大学生の英語自主学習の量と内容に関する調査 上仲 律子 是近 成子	新しい学習指導要領における少人数選択クラスでの学校図書館活用と英語教育 本田 浩子
15:10 ～ 15:40	学習者の能力に基づくリスニング・写真描写問題の分析 井上 英俊	日本、韓国、中国英語教科書比較 —語彙に関しての一考察— 樋口 慎一	教師としてのビリーフの構築 —学級担任が外国語活動を指導するために— 福原 史子 高橋 幸子	「英語による授業実践」④ i+1の言語活動を求めて ～ICTの活用と協同学習の事例～ 吉川 正美
15:45 ～ 16:15	Language learning through peer interaction: Individual differences towards fluency 中村 英子	試行的パラグラフ構造把握トレーニングが母語による要約の質におよぼす影響 浅井 智雄	eラーニング学習における学習者要因の学習行動、学習効果への影響 池上 真人	高等学校での授業は「タスク中心」ですか？ —新学習指導要領・外国語編に関する一考察— 宮迫 靖静
16:20 ～ 16:50	中学生レベルにおけるアウトプット能力養成を目指した Large Grammar 活動 —理論と実践(1)— 足立 和美		英語教師志望動機に関する研究 上西 幸治	

第1室（講義室4階5407）

	発表タイトル	発表要旨
14:00~14:30	映像の有無がシャドーイングの効果の促進に及ぼす影響について 國光 薫（広島大学大学院）	多くの研究において、シャドーイングがリスニング力の向上と認知的方略の向上に有効であると報告されている。本研究の目的は、テキストの映像の有無がリスニング力と認知的方略に与える影響を検証することであった。本研究では、映像付きのテキストと音声のみのテキスト、また MALQ 質問紙を用い、1回 25分の訓練を 7 回実施した。本研究の結果から、映像付きテキストを使用してシャドーイング訓練を行った実験参加者において、リスニング力と認知的方略が有意に高まることが立証された。
14:35~15:05	ライティング活動に關与する要因について（2） 藤居 真路（広島県立大門高等学校）	ライティング活動における作画の効果について、学習者自身がイメージを浮かべて作画しライティング活動を行う場合と、イラストを見てライティング活動を行う場合との差について研究した結果を報告したい。
15:10~15:40	学習者の能力に基づくリスニング・写真描写問題の分析 井上 英俊（明石工業高等専門学校）	リスニングテストにおける問題形式の一つとして、写真描写問題は広く用いられている。本発表では、学習者のリスニング能力を基にして、写真描写問題の特徴を概観する。
15:45~16:15	Language learning through peer interaction: Individual differences towards fluency 中村 英子（ランカスター大学大学院）	Fluency development seen in four learners' discourse data of a picture carousel task suggests the close links between their language use and the prior interactions despite their different foci on language.
16:20~16:50	中学生レベルにおけるアウトプット能力養成を目指した Large Grammar 活動 -理論と実践(1)- 足立 和美（鳥取大学）	Swain のアウトプット仮説と Widdowson などが唱える発話におけるチャンク の役割について言及し、次にそれを日本の中学生の英語力に合わせて構築した、スピーキング能力養成を目指した理論を述べる。

第2室（講義室4階5405）

	発表タイトル	発表要旨
14:00~14:30	<p>リーディングを通じた付随的語彙習得：意味提示時における語彙反復とその保持率 山内 勝弘（広島大学大学院）</p>	<p>本研究は付随的語彙学習の中でも、特に語彙反復と意味提示との関係を探求することを目的とした。英語学習者十名に、反復数の異なる疑似語を分布させた物語を読ませた結果、七回同じ語に遭遇すると適度に意味が保持されることが分かった。</p>
14:35~15:05	<p>日本人英語学習者に対するリーディング指導の一研究 ～Prosody 指導を支えとするチャンキングアプローチを採用して～ 中嶋 多美子（広島大学大学院）</p>	<p>本研究は大学生を対象に、①チャンキングのみ、および②チャンキング＋prosody、の2種類の音読による指導法を対照実施し、音読の速さと質、さらに、内容理解における prosody 指導の効果を明らかにしようとするものである。</p>
15:10~15:40	<p>日本，韓国，中国英語教科書比較 –語彙に関しての一考察– 樋口 慎一（岡山県立岡山大安寺中等教育学校）</p>	<p>日韓中の教科書に使われた語彙の数、そのレベルについて考察を行う。結果は、日本のものに比べ、韓中の教科書内の語彙は圧倒的な量的優位性を示し、また、レベルにおいても高い語彙が使用されていることが分かった。</p>
15:45~16:15	<p>試行的パラグラフ構造把握トレーニングが母語による要約の質におよぼす影響 浅井 智雄（広島県立広島皆実高等学校）</p>	<p>本研究は、英文読解度を高めるために有効とされ、先行研究でも、その効果が証明されている意図的パラグラフ構造把握指導を、日本人高校生という文脈で試行した。そして、その有効度を、母語による要約の質的分析を通じて検証しようとした。</p>

第3室（講義室4階5404）

	発表タイトル	発表要旨
14:00～14:30	英語学習における3欲求と内発的動機づけの因果関係 伊藤 紗織（安田女子大学大学院）	本発表では、Deci & Ryan (1985) の「自己決定理論」などの先行研究を基にアンケートを作成し、その結果を内発的動機付けと3欲求（自立性・有能性・関係性）との関係に焦点を当てて考察する。
14:35～15:05	大学生の英語自主学習の量と内容に関する調査 上仲 律子（岡山大学・岡山県立大学非常勤師） 是近 成子（岡山大学非常勤講師）	大学で教養英語を履修する学生が英語能力向上のためにどのように日々の自主学習を行っているのかを調査し、自主学習時間と一般教養英語の履修数、及びTOEICスコアとの関係などについて分析した結果を発表する。
15:10～15:40	教師としてのビリーフの構築ー学級担任が外国語活動を指導するためにー 福原 史子（ノートルダム清心女子大学） 高橋 幸子（ノートルダム清心女子大学）	小学校教師を目指す学生の意識について2007年度から3年間の経年比較をし、それを基に「外国語活動教育法」の授業をデザインした。本授業を、教師としてのビリーフの構築に焦点を当てた質的研究を通して検証し課題を追究する。
15:45～16:15	eラーニング学習における学習者要因の学習行動、学習効果への影響 池上 真人（松山大学）	本研究では、自学自習型eラーニングプログラムの受講者（学習者）に対して実施した学習者要因に関するアンケートの結果をもとに、学習者要因が学習行動やプログラムの学習効果にどのような影響を及ぼしているのかを分析、考察した。
16:20～16:50	英語教師志望動機に関する研究 上西 幸治（摂南大学）	本研究は、英語科教育法を履修する大学生に対して、英語教師への志望動機に関する調査を行い、分析・検討した。更に、英語力や指導力の情意面との関連性を探求することを試みた。その結果、高い志望意識や指導力意識との関連などが明らかになった。

第4室（講義室4階5403）

	発表タイトル	発表要旨
14:00～14:30	文学教材を用いた発問作成のためのチェックリスト —「語り」に焦点を当てて— 武久 加奈（広島大学大学院）	文学作品を原作とする教材を用いて発問を作る際の観点を示したチェックリストを作成し、チェックリストを用いた発問作成の具体例を示すこと。今回は Genette (1972) の理論に基づく「語り」の項目のみを扱う。
14:35～15:05	新しい学習指導要領における少人数選択クラスでの 学校図書館活用と英語教育 本田 浩子（広島県立忠海高等学校）	新しい学習指導要領の「生徒の言語活動の充実」を位置づけた授業を、学校図書館の機能に注目し、逆向き設計論に基づいて設計した。授業改善の視点より、少人数選択授業での実践を通し、多面的に評価した。
15:10～15:40	「英語による授業実践」④ i+1 の言語活動を求めて ～ICTの活用と協同学習の事例～ 吉川 正美（香川県立高松高等学校）	『英語 I』の活用・探究をめざしたプロジェクト学習で環境レポートを作成した。少人数班での学習成果と活動振返データを考察して、1年間継続した「英語による授業実践」の学習者に与えた影響を検討しようとする。
15:45～16:15	高等学校での授業は「タスク中心」ですか？ —新学習指導要領・外国語編に関する一考察— 宮迫 靖静（岡山県立岡山操山高等学校）	高等学校新学習指導要領の改訂に関して、「英語に触れる機会」・「コミュニケーションの場面」・「授業は英語で」等が注目されている。これは、タスク中心の指導法 (Task-Based Language Teaching) の導入なのか？それとも、PPPアプローチで対応できるのか？